

7 糖尿病(案)(H.23.5.26版)

〈指標の達成状況〉

改善した	目標値に達した		
	目標値に達していない		
変わらない			
悪くなっている			

※各指標の達成状況については、別添シート参照

〈総括評価〉

○糖尿病健診の受診及び健診受診後の事後指導を受けている人の割合については、改善がみられた。

○糖尿病有病者数について、2010年における目標値を下回り、糖尿病有病者で治療継続している人の割合については改善がみられた(目標達成)。

○糖尿病合併症については、2010年における目標値を超えて悪化した。

○中間評価が追加となった項目は平成20年度と平成21年度の比較にとどまるが、メタボリックシンドロームの該当者・予備軍は変わらず、特定健診・保健指導の受診者率には改善がみられた。

□透析患者については新規導入数を比較してはどうか。

〈指標に関連した施策〉

○循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

○医療計画(4疾病5事業)

○食事バランスガイド

○エクササイズガイド

○特定健診・特定保健指導

健康日本21の目標値に対する直近値に係るデータ評価シート(案) (H.23.5.26版)

糖尿病分野

記載留意事項・・・各項目の冒頭には、見出しとして分析結果、課題等を要約として記載してください。
詳細なデータ解析をした場合は、解析結果や二次資料を添付してください。

分野:糖尿病			
目標項目:7.4 糖尿病健診の受診の促進(受けている人の数)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年健康・福祉関連サービス需要実態調査)	中間評価 (H16年国民生活基礎調査)	直近実績値 (H19年国民生活基礎調査)
【定期健康診断等糖尿病に関する健康診断受診者】 6,860万人以上	4573万人(参考値)	5850万人	6013万人
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析,特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 ○健診の受診者は増加してきている。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○特定健診等においては、受診率を目標値としており、整合の検討が必要。 <input type="checkbox"/> 性・年代別、地域別の受診率の比較は可能か。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標値に向かって改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> 今後は特定健診でHbA1cを測定している人数、空腹時血糖を行っている人、とわけて把握が可能ではないか。 <input type="checkbox"/> 対象となる母集団の数はおそらく3群ともほぼ等しいと思うが、どこかに分母の数が必要ではないか。数自体より%が大切。また、年齢別に見て、最近高齢者が増えているということはないか。		

分野:糖尿病			
目標項目:7.5 糖尿病健診受診後の事後指導の推進(受けている人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年糖尿病実態調査)	中間評価 (H14年糖尿病実態調査)	直近実績値 (H19年国民健康・栄養調査)
a)糖尿病健診における異常所見者の事後指導受診率 (男性) 100%	66.7%	74.2%	80.6%
a)糖尿病健診における異常所見者の事後指導受診率 (女性) 100%	74.6%	75.0%	79.4%
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<input type="radio"/> 糖尿病健診において、異常所見のあったものの事後指導の受診率は男女とも増加してきた。 <input type="radio"/> 策定時、男性の事後の受診率は、女性より低かったが現在は、男女とも概ね8割程度となっている。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<input type="checkbox"/> 事後指導として、特定保健指導(積極的支援、動機づけ支援)を利用した人の人数も把握可能ではないか。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<input type="radio"/> 目標に向けて改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> 事後指導受診率が高いが、どの範囲の指導を含んでいるのか 検討が必要ではないか。 <input type="checkbox"/> どのような集団の事後指導受診率が増えているのか。健康なお年寄りではなく、見逃されていた中高年の男性、となると80%の意義も大きいのではないか。		

分野:糖尿病			
目標項目:7.6 糖尿病有病者の減少(推計)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年糖尿病実態調査)	中間評価 (H14年糖尿病実態調査)	直近実績値 (H19年国民健康・栄養調査)
糖尿病有病者数 1000万人	690万人	740万人	890万人
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<input type="checkbox"/> 糖尿病有病者(糖尿病が強く疑われる人)は増加傾向にある。 <input type="checkbox"/> 年齢調整、または同年齢比較を行う必要があるのではないか。(平成9年の異常率を現在の人口分布にする と何人になるのかを示してはどうか。)過去からの増加のトレンドが抑制されたかをグラフ化してみるとよいの ではないか。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、 方法、分析材料等)がある場合、記載。	<input type="checkbox"/> 加齢の影響を調整してはどうか。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化 したか等を簡潔に記載。	<input type="checkbox"/> 目標値(推計値)は達成している。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべ きポイントを簡潔に記載	<input type="checkbox"/> 特定健診データで、HbA1cの状況が把握できる。コントロール不良者(7%以上の割合など)を今後指標にす るとよいのではないか。また特定健診で糖尿病と判定される(HbA1c6.1%)以上の割合や人数を参考値として 見ておくとよい。		
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> 1000万人という目標値を設定した根拠があるとよいと思う。増加率に性差、年齢差はないのか。 <input type="checkbox"/> 推計有病者数が明らかに上昇しているにもかかわらず「目標値(推計値)は達成している」という評価になっ てるが、そもそも目標値の1000万人というのが適切な目標だったのかという問題があるのではないか。また、推定 有病者数よりも、年齢階級別の有病率の推移を見る方が適切な評価だと考える。		

分野:糖尿病			
目標項目:7.7 糖尿病有病者の治療の継続(治療継続している人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年糖尿病実態調査)	中間評価 (H14年糖尿病実態調査)	直近実績値 (H19年国民健康・栄養調査)
糖尿病有病者の治療継続(治療継続している人の割合) 100%	45.0%	50.6%	55.7%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 ○増加傾向にある。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○目標値に向かって改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> 特定健診データでHbA1c>6.5%なのに受診していない人の割合、人数を補足的に確認すべきではないか。 <input type="checkbox"/> HbA1c別の治療継続率に興味がある。ドロップアウトしたのがコントロール不良者に多いとすれば、それは重大な問題ではないか。		

分野:糖尿病			
目標項目:7.8 糖尿病合併症の減少(合併症を発症した人の数)(合併症を有する人の数)			
目標値	策定時のベースライン値 (1998年「我が国の慢性透析療法の現況」(日本透析医学会))	中間評価 (2004年「我が国の慢性透析療法の現況」(日本透析医学会))	直近実績値 (2009年「我が国の慢性透析療法の現況」(日本透析医学会))
【合併症を発症した人の数】 糖尿病性腎症 11,700人	10729人	13920人	16416人
目標値	策定時のベースライン値 (1988年「視覚障害の疾病調査研究」)	中間評価 (なし)	直近実績値 (H20年度社会福祉行政業務報告)
【合併症を有する人の数】 失明 -	約3000人	なし	2221人
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p>○糖尿病により透析の導入となった者の数は、目標値を超えて増加している。</p> <p>○糖尿病により視覚障害となったものは、ベースライン値に比して、減少傾向である可能性がある(参考:2679人(H18年度社会福祉行政業務報告))。</p> <p>○糖尿病性腎症による透析導入患者数は増加傾向にある。</p> <p>○糖尿病を主原因として、年間2000人以上が新規に視覚障害となっている。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<p><input type="checkbox"/>透析については 現在透析中の患者数だけでなく、新規透析導入者数を確認する必要があるのではないかと。(透析後の予後が良いために 透析期間が長くなっている人が多い可能性あり。)</p>		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<p>○指標の目安として示された糖尿病性腎症の数については、目標値を超えて悪くなっている。</p>		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	<p><input type="checkbox"/>腎症については、特定健診で「血糖高値かつ尿蛋白陽性」者数(率)を把握することが可能ではないか。尿蛋白陽性者における血糖区分、血圧区分などを確認すると、腎症対策の進捗状況が把握できるのではないかと。(性、年代、地域別の比較も)</p>		
(5)その他コメント	<p><input type="checkbox"/>眼科では、硝子体手術または光凝固術などの件数が把握できるとよりの確な解釈ができる。糖尿病有病者に対して、定期的な眼科受診の有無を調査するとよいのではないかと。</p> <p><input type="checkbox"/>失明者の数について、1998、2004、2009年のデータソースが異なるが、比較しうるものか。そうであればその根拠は何か。</p>		

分野:糖尿病			
目標項目:7. 10 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の該当者・予備軍の減少(メタボリックシンドロームの該当者・予備群の人数(40~74歳))			
目標値	策定時のベースライン値 (平成16年国民健康・栄養調査)	中間評価 (なし)	直近実績値 (平成20年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況)
該当者・予備群(男性) 平成24年10%以上減少(対平成20年) 平成27年25%以上減少(対平成20年)	1400万人(参考値)	-	約420万人38%(特定健診受診者のうち実数)
該当者・予備群(女性) 平成24年10%以上減少(対平成20年) 平成27年25%以上減少(対平成20年)	560万人(参考値)	-	約122万人13%(特定健診受診者のうち実数)
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p>○国民健康・栄養調査によるメタボリックシンドロームの該当者等の数値は、男女とも約2000万人前後で推移している。</p> <p>○平成20年度より開始された特定健診・保健指導については、約2000万人の受診者のうち、約542万人がメタボリックシンドローム該当もしくは予備群であった。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<p>○ベースとなる平成20年のメタボリックシンドロームの該当者等の数は、特定健診・保健指導の受診率による影響が大きくでる。</p> <p>□直近実績値は国民栄養調査のデータを掲載したほうが良いのではないかと。特定健診はあくまで参考値としてはどうか(受診率の影響があるため)。</p>		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<p>○平成21年度の速報値によれば、メタボリックシンドローム該当もしくは予備群は約576万人となっている。</p> <p>○健診受診者中の割合は、平成20年度(26.8%)で、平成21年(26.7%)であり、現在のところ大きな変化は見られない(変わらない)。</p>		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<p>□厚労省はずっと「軍」を使ってきたが、2007年から「群」に変更したが「群」にした理由は何か。</p> <p>□人数で評価するならば、国調からの推計値を用いるべき。特定健診データを用いるならば、有病率(該当者率)で評価すべきではないかと(男女別)。</p>		

分野:糖尿病			
目標項目:7.11 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の概念を導入した健診・保健指導の受診者数の向上(特定健康診査の実施率)(特定保健指導の実施率)			
目標値 指標の目安	策定時のベースライン値 (なし)	中間評価 (なし)	直近実績値 (平成20年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況)
a)健診実施率 平成24年70% 平成27年80%	-	-	38.9%
b)保健指導実施率 平成24年45% 平成27年60%	-	-	7.7%
コメント			
経年変化を踏まえたベースライン値と現状値の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<input type="checkbox"/> 特定健診・保健指導の開始初年度であり、変化は分析不可。 <input type="checkbox"/> 特定健診実施率については、男性(43.1%)が女性(34.8%)に比して高かった。 <input type="checkbox"/> 保健指導実施率については、女性(9.4%)が男性(7.1%)に比して高かった。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。			
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<input type="checkbox"/> 平成21年度の速報値によれば、a)健診実施率40.5%b)保健指導実施率13.0%と、平成20年度の値よりは改善している。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	<input type="checkbox"/> ベースラインのデータがないので、評価することはできないのではないか。また、男女のMetsの定義が国際的に容認されていないところから、男女差についてのコメントも控えてはどうか。		